

シューベルト！シューベルト！

多くのシューベルトの歌曲に触れる

〇〇〇〇高等学校 〇〇 〇〇（音楽科）

1 はじめに

音楽評論家の飯尾洋一氏の著書のなかに以下の一文を読んだことがある。

『クラシック音楽の良いところは、いつ入門しても遅すぎることがない事にある。楽曲そのものが古くなることはないので「時期を逃した」という心配もない。また、音楽のジャンルとしてあまりに膨大なゆえに全てを聞き尽くすことはできない。誰もが自分の好きな物だけを聴いているのだ。』

この文章を読んだとき、膨大なジャンルをもつクラシック音楽だが、授業でこそ示せる入り口はなんだろうか、また15歳から18歳の多感な時期の生徒たちにどれだけ入り口を示すことができるだろうか、と考えた。そして示した入り口からさらに奥深い世界に行ってほしい、それが音楽科の目標である「生涯にわたり音楽を愛好する心情を育てる」ことへつながると思い、題材を設定した。

「シューベルトの歌曲(ドイツ・リート)」を選択した理由は次の主題設定の理由で述べたいと思うが、今回、教科研究の題材として、シューベルトの歌曲を4曲歌唱して4曲鑑賞した。それだけ多く扱っても本当に全体のほんの一部である。その一部分が扉となり次の扉を開けてくれることと思い、授業を進めようと思う。

1曲を長期間かけて、深く学習することは大変有意義なことだと承知しているが、たくさんの歌曲を歌唱表現し、鑑賞し、作曲者について知ってほしいと思う。また、こうした授業設定を基に、生徒たちが他の音楽家、他のジャンルにも同様の関心を持ってくれたらと思う。

勤務校である〇〇〇〇高等学校は創立100年を超える伝統校である。平成19年度から進学指導重点校に指定され、昨年度より単位制導入、45分7限授業・35単位となった。生徒達は楽器経験者も多く、ソルフェージュ能力も高い。授業には集中力を持って参加している。また、6月に行われる木高祭での合唱コンクールでは1年生から3年生まで大変熱心に取り組んでいる。木高祭は合唱コンクールの他、文化の部(一般公開1日半)・体育の部と開催されておりとてもハードなものであるが、その忙しい準備期間中、校内のあちこちから歌声が流れてくる。指揮者・伴奏者・パートリーダーは音楽的な指示を楽譜から読み取り、伝え、表現しようとする。リーダー以外も主体的に楽譜を読み込み、意見を出す生徒もいる。音楽科教諭としても大変忙しい期間ではあるが、校内から沢山の歌声が聞こえてくるのは大変幸せなことであると思う。

教育課程は1学年は音・美・工・書の四科から選択、2学年は物理(4単位)と、芸術(2単位)・倫理(2単位)の選択となる。3学年では他教科間選択となり、毎年数名いる音楽大学や教育学部音楽科に進学する生徒を対象に楽典や聴音を行う授業と、芸術として教養を深める授業とが展開されている。

2 主題設定の理由

数ある作曲家の中から、「シューベルトの歌曲」を選んだのは、歌唱と鑑賞のバランスが授業時間内でとりやすいこと、解説の内容理解がしやすいこと、また、歌唱と伴奏の関連性に対する理解、作曲家の人生と彼を取り巻いていた環境(シューベルトティアード)、何よりも美しい旋律と詩の内容が高校生の興味・関心・理解・共感を高めると思い、題材として設定した。

3 歌唱教材

生徒が歌唱しやすいと思い、以下の有節形式の歌曲を取り上げた。どの曲も歌詞の内容をよくとらえ、ピアノ伴奏をふまえた上で表現するようにしたい。

(1) .「楽に寄す」(日本語+独語)

シューベルトの親友であるショーバーによって書き下ろされた詩は、芸術を、音楽を賛美する内容である。2分の2拍子で、大きなフレーズ感を持ち、高い普遍性が感じられる。生徒にもすぐに共感でき心情を込めて歌唱できると思い選んだ。実際生徒達の人気度も高い。

(2) .「野ばら」(日本語+独語)

あまりに有名な、素朴で美しい旋律と伴奏を持つこの曲はシューベルトの歌曲では外せない1曲であると思う。生徒達は歌詞の本当の意味を伝えても 歌のかわいらしさからか、愛らしいバラが咲いている様子を思い浮かべるようである。また(難しくとも、発音が少々怪しくとも)ドイツ語で歌唱する方が好みであった。

(3) .「湖上の美人」より「アヴェ・マリア」(日本語)

ハーブを思わせるピアノ伴奏、伸びやかな旋律、静かで敬虔なこの曲は是非生徒に歌唱して欲しいと思い、難度が高いと思いつつも授業で設定している。テレビのドラマ、バラエティ、コマーシャル、また、フィギアスケートなどでも流れており、一般の知名度も高い。生徒も大好きな1曲であるが、難曲であるため、発表や個別テストではなかなか選択されないのが私としては残念である。

(4) .「菩提樹」(日本語混声4部合唱版)

原曲で歌唱するには難度高すぎるが、E - Durの優しい甘い旋律が過去の思い出をしみじみと歌い上げており、生徒達が大人になってから思い出して歌って欲しいと思い、設定した。混声4部合唱曲に編曲されているものならば難度は下がり、取り組みやすいと思ったが、高校生の人気度はあまり高くない。アウフタクトが少々とりづららしい。

4 鑑賞教材

通作形式の歌曲、または変形の有節形式歌曲を扱った。ストーリー性があり歌詞の内容を反映しながら複雑な構成を呈する歌曲の構成には 歌詞の意味や内容が強く関わっている点を意識し、歌詞と旋律との関わり、ピアノ伴奏と旋律の関わり、ピアノ伴奏が表現しているものなどに興味を寄せてほしいと思う。

(1) .「魔王」

シューベルトの歌曲でやはり外せない一曲だと思い、鑑賞教材の最初の曲に設定した。中学での鑑賞共通教材でもあり、ストーリーに沿った旋律と伴奏がまるで映画のような曲であることから、1度聴いたらほとんどの生徒が忘れない。印象に残る面ではどの生徒でも同様であるが好き嫌いは結構分かれる曲である。

(2) .「白鳥の歌」より「セレナーデ」

ロマンティックな旋律がまさに恋人の家の窓辺で歌う(セレナーデの)情景を思い浮かべることが出来ると思い、選曲した。また、ピチカートを模したピアノ伴奏が大幅な変化のついた第3節からは特に旋律と絡み合っていることを特に生徒に味わって欲しい。

(3) .「ます」

明るく、軽やかな曲を鑑賞したいと思い、設定した。飛び跳ねるます、軽やかな水の流れなどが曲想からすぐに連想できると思われる。冒頭のピアノの6連符による滑らかな味付けも味わって欲しいと思う。「セレナーデ」と同様に第3節が大幅な変化を付けられている。歌詞の本当の意味は生徒にはあまりピンと来ないようである。

(4) .「冬の旅」より「菩提樹」

歌唱の教材としても扱っているが、やはり、やさしく甘い旋律を生徒に味わってほしいと思い選んだ。長調から短調へ、また、第3節ではまったく新しい旋律がでてくるなど、かなり独特の形の歌曲であることを理解してほしいと思う。短調から長調へ帰ってきた第3番で、やっと最後の2小節を聞くことが出来て、合唱曲で歌ってきている生徒達も得心がいくようである。

5 . 解説教材

教育芸術社「高校生の音楽1」(平成14年度検定版)より

「大作曲家を訪ねて・シューベルト」

教育芸術社「音楽の鑑賞資料と基礎学習」より「シューベルト」「ロマン派」

教育芸術社「音楽史」(作曲家とその作品)より

「大作曲家、その素顔と作品 シューベルト」

6 教材設定の理由

なるべく多くの歌曲を扱いたいので、歌唱教材・鑑賞教材・参考資料共に新旧の教科書に載っているものを選んでいく。

音楽之友社、教育芸術社ともにシューベルトの歌曲は数多く扱っており、歌いやすい音域に移調されている。鑑賞教材としてあげた曲も歌唱教材として扱っている教科書もあり、鑑賞の際に共通して楽譜を使用することができる。また、コンパクトにまとめた資料を数多く読み、シューベルトについての理解を深める事により表現の一助とすることができる。

7 指導計画

2学年での学習であるが、1学年時よりの継続で横隔膜の支えと喉を十分に開くこと、正しい姿勢で豊かな歌声を出せるように留意して指導する。

今年度(平成21年度)から2単位に増単されたが、水・木と1時間(45分)ずつの授業と少々変則ではある。器楽の授業(キーボードを使ったコード学習)と平行して、1学期に当たる期間・10時間(1時間は実技発表及びレポート発表時間)を当てる。

1時間目 「楽に寄す」(日本語)歌唱(読譜, 楽語理解, 解説,)

教育芸術社「音楽の鑑賞資料と基礎学習」より

「シューベルト」「ロマン派」配布

2時間目 「楽に寄す」(日本語+独語・1番のみ)歌唱

(ドイツ語発音理解, 内容理解, 表現)

「魔王」鑑賞 参考資料配布

3時間目 「野ばら」(日本語)歌唱(読譜, 楽語理解, 解説)

教育芸術社「音楽史」(作曲家とその作品)より

「大作曲家、その素顔と作品 シューベルト」配布

4時間目 「野ばら」(日本語+独語・1番のみ)歌唱

(ドイツ語発音理解, 内容理解, 表現)

「ます」鑑賞 楽譜・参考資料配布

5時間目 「アヴェ・マリア」(日本語)歌唱(読譜, 解説)

6時間目 「アヴェ・マリア」歌唱(詩の理解, 楽語理解, 表現)

「セレナーデ」鑑賞 楽譜・参考資料配布

- 7 時間目 「菩提樹」歌唱（読譜，解説）
「冬の旅」より「菩提樹」鑑賞 参考資料配布
- 8 時間目 「菩提樹」歌唱（詩の理解，楽語理解，表現）
混声 4 部合唱曲「菩提樹」の鑑賞
- 9 時間目 歌唱実技発表準備（歌唱教材から 1 曲選択）またはレポート発表準備
グループ分け，曲選択，発表のための練習
- 10 時間目 歌唱実技テスト（歌唱教材から 1 曲選択）またはレポート発表
発表前に，歌う曲の紹介，自分たちが感じたこの曲の魅力を言う。

後日 歌唱発表者はレポート提出。レポート発表者は単独歌唱テスト実施。

8，観点別評価

評価の観点	評価の内容	評価の方法
観点 1 興味・関心 意欲	意欲的・主体的に表現しようとしている。 横隔膜の支えと喉を十分に開き，正しい姿勢で豊かな歌声を出せる。	各時間の発声練習 歌唱練習
観点 2 芸術的感受や 表現の工夫	歌詞の内容，基本的楽典事項を理解し，音楽表現に生かしている。 旋律の美しさを主体的に味わい，個性豊かな表現ができる。	各時間の発声練習 歌唱練習 実技発表および試験
観点 3 創造的な 表現の技能	楽曲にふさわしい発声で表現できている。 言葉の響かせ方に注意した歌唱ができている。 個性豊かな表現ができる。	各時間の発声練習 歌唱練習 実技発表および試験
観点 4 鑑賞の能力	背景となる歴史的・文化的状況を理解し，作曲家について考察しながら，個々の楽曲に対する理解を深め，その魅力を味わう。	発表会での曲紹介 レポート発表及び提出

9 実践例

日 時 平成 21 年 7 月 8 日（水）第 3 校時（10 / 10 時間目）

場 所 音楽室

学 級 第 2 学年 1・8 組（男子 8 人 女子 17 人）

所 見 ○○○○高等学校では 2 学年より，物理 4 単位と倫理 2 単位＋芸術 2 単位の選択

となる。毎年 40 人前後が選択している。

このクラスは真面目で学習能力も高く，個人差はあるが読譜力もあり，歌唱の好きな生徒が多い。少々大人しい感があるが，素直に助言を受け入れ難易度の高い題材にも楽しみながら意欲的に授業に取り組んでいる。ピアノや管楽器の経験者も多

い。

本時の目標

- (1) 歌詞の内容，基本的楽典事項を理解し，音楽表現に生かしている。
- (2) 旋律の美しさを主体的に味わい，個性豊かな表現ができる。
- (3) 他の生徒の発表を通して，4月より学習した作曲家・楽曲についてさらに関心を高め，音楽の世界観を広げることができる。

本時の展開

	学 習 活 動	指 導 内 容	指導上の留意点
導 入 5 分	出席確認 発声練習	発声練習 ア母音など コンコーネ	横隔膜の支えと喉を十分に開き，正しい姿勢で豊かな歌声を出せる。(観点 1)
展 開 3 8 分	グループ発表の準備・練習 グループ発表会 プログラムにしたがって発表をする。 歌唱発表の前に曲紹介，自分たちの感じている曲の魅力を述べる。 1 . 「菩提樹」 2 . 「An die musik」 3 . レポート発表 4 . 「Heidenroslein」 5 . 「An die musik」 6 . レポート発表 7 . 「Ave Maria」	各グループにキーボード やラジカセを用意し，練習する。 生徒が感じている楽曲の魅力を積極的に表現できるように助言・指導，またはピアノ伴奏をする。 感想を明日の授業で文章化できるようにメモを取るように指導する。ただし，聴くことをおろそかにしないように注意する。	発声練習を意識しながら，歌詞と旋律の流れに注意しながら歌唱・発表させる。(観点 2) 発表時における歌唱の注意点を各グループに伝える。(観点 2 ， 3) 簡潔に曲の紹介を通し，曲の背景を理解するように留意する。(観点 4) レポート発表は，学習した楽曲に対する理解を深め，その魅力を味わった事を伝えられる内容のものを旨す。(観点 4)
ま と め 2 分	評価 次時の予告	それぞれの発表の評価をする。 各自の自分への評価・他グループへの評価を提出することを指示する。	各団体の良かった点を必ず評価する。

2 1 ・ 2 8 R

シューベルトの歌曲（ドイツ・リート）発表会プログラム

1 . 女子生徒 A ・ B ・ C ・ D ・ E ・ F

「菩提樹」近藤朔風（さくふう）訳詩，土屋公平編曲・2部合唱

Sop . A ・ B ・

Alt . C ・ D ・ E

pf . F

2 . 男子生徒 A ・ B ・ C （ pf . 町田京子）

「An die Musik」(堀内敬三 訳詩)

3 . 男子生徒 D

レポート発表「シューベルトの歌曲について」

4 . 女子生徒 G ・ H ・ I ・ J ・ K ・ L （ pf . 町田京子）

「Heidenroslein」(ゲーテ 作詞)

1番 G ・ H

2番 I ・ J

3番 K ・ L

5 . 男子生徒 E ・ F ・ G (pf . 町田京子)

「An die Musik」(堀内敬三 訳詩)

6 . 男子生徒 H

レポート発表「シューベルトの歌曲について」

7 . 女子生徒 M ・ N ・ O ・ P ・ Q

「Ave Maria」(堀内敬三 訳詩)

歌唱 M ・ N

Cl a . O (2 番は歌唱)

Tp . P (1 番は歌唱)

pf . Q

1. 女子生徒 A・B・C・D・E・F

「菩提樹」近藤朔風（さくふう）訳詩，土屋公平編曲・2部合唱



女子生徒C

- ・ 1番だったので緊張したけれど，リハーサルの時と直前練習で Sop.をもっと出して，強弱を付けるよう注意された。本番はその事を意識して歌えました。

女子生徒D

- ・ もっと楽譜を読み込んで曲の雰囲気などを出せれば良かった。

女子生徒F

- ・ 曲紹介をするに当たって菩提樹の種類まで明らかになって発見多し！でした。

他グループ生徒

- ・ ピアノが最後の所で強弱がしっかりとついていたすごいとおもった。

他グループ生徒

- ・ きれいにハモっていて癒されました。

2. 男子生徒 A・B・C

「An die Musik」(堀内敬三 訳詩)



曲選択理由より

- ・ この曲の旋律に乗って歌詞が伝えたいことを歌いたいと思った。音域も自分たちにあっていると思う。

男子生徒B

- ・ 最初緊張して喉がしまっていて，声が出なかったのが残念だった。

男子生徒C

- ・ 思ったより声が出なかった。恥ずかしさであがってしまった。他の二人がよく頑張ってくれて良かった。

他グループ生徒

- ・ 男子だけで歌うといつもとまた雰囲気が変わって新鮮だった。

他グループ生徒

- ・ 選曲の理由や曲の紹介がはっきりとしているのがよかった。歌は大変そうだったけど，頑張ってるのが伝わってきた。

3. 男子生徒 D

レポート発表「シューベルトの歌曲について」



男子生徒D

- ・ 作成時間が少なく、準備がきちんと出来ないまま発表を迎えてしまったので緊張して足が震えていた。内容はあまりうまくまとまらなかったが、シューベルトの人間像や当時の音楽について他の人より詳しく知ることが出来たのでレポート発表をしてよかった。

他グループ生徒

- ・ (レポート発表をした) 2人が違った観点で話したのが面白かった。

他グループ生徒

- ・ D君はシューベルトの交友関係から自分たちが学び取れるものについてまとめていて単純に凄いと思った。

4. 女子生徒 G・H・I・J・K・L

「Heidenroslein」(ゲーテ 作詞)



女子生徒G

- ・ もっとはっきりと歌えば良かった。巻き舌もウマクできずに終わってしまって残念だった。でも楽しかったです。

女子生徒I

- ・ 「愛らしく」をイメージして歌いました。もう少し顔を上げて歌えば声が響いたかもしれない。

女子生徒K

- ・ 緊張して高い声が出なかった。自分的にはイマイチだったけどグループとしてはわりとまとまっていたと思う。前に出るタイミングもそろってたし、歌詞も噛まずに歌えたのでまあよかった。

他グループ生徒

- ・ 1・2・3番を2人ずつ歌うというのが新鮮だった。ドイツ語の方が日本語より軽やかなメロディに合っていると思う。

他グループ生徒

- ・ 2番を歌った2人が声がとても声量があって高音もきれいに響いていて良かった。

5．男子生徒 E・F・G

「An die Musik」(堀内敬三 訳詩)



男子生徒F

- ・ 緊張して足が震えたけど歌は多分うまくいったと思う。強弱や伸ばしの切りはうまくできたが、盛り上がるところで高音が出なくて残念だった。

男子生徒G

- ・ 伸ばしの切りや強弱は気を付けることが出来たが、もっと声を出さないとな、と思った。

他グループ生徒

- ・ F君の声がよく響いていた。素晴らしい。曲の感じがよく伝わってきた。

他グループ生徒

- ・ 凄く声が出ていて(特にF君)本当に「音楽が好きっ!!」って気持ちがあらわされていたと思う。

6．男子生徒 H

レポート発表「シューベルトの歌曲について」



男子生徒H

- ・ 噛みまくったのと足が震えていたのが情けなかった。でも、内容はそこそこいいいたのではないかなと思う。もうちょっと顔を上げて発表できれば良かった。シューベルトの生い立ちを調べられたのは良い知識になった。

他グループ生徒

- ・ 「魔王」についての率直な感想(「この曲はあまり好きでない。」)が凄く印象に残った。次に「魔王」を聞く機会があったら焦燥感のあるところと最後の静けさのところを重点的に聞いてみたいと思った。

他グループ生徒

- ・ D君とまた違った視点での発表で面白かった。シューベルト、「魔王」について詳しく調べて、鑑賞の時にもしっかり聞いて、それで、「あまり好きでない」という感想がえ~と思った。

7. 女子生徒 M・N・O・P・Q

「Ave Maria」(堀内敬三 訳詩)



女子生徒P

- ・ 最初の「アヴェ・マリア」のところが緊張と練習不足で息が続かなかった。でも歌っているとTp.やCla.と一緒に歌うのが気持ちよくなって2番なのに1番の歌詞を歌ってしまった。自分的には気持ちよく楽しく歌えた。

女子生徒M

- ・ 息を節約しなくてはいいけないのであまり盛り上げられなかった。スラーのところや6連符のところを意識してなめらかに歌えたと思う。

他グループ生徒

- ・ 楽器だけでなく、歌っていた人も楽器に負けないくらいしっかりと声を出していて良かった。

他グループ生徒

- ・ 楽器も歌声もきれいでした。何よりピアノ伴奏がこの曲独特のゆったりとした、静かなお祈りの雰囲気を出せていた。

全体を通しての感想

女子生徒

・ シューベルトの曲を沢山聴いて、歌って、発表会は「シューベルデアーテ」みたいに出来たかなと思う。楽しい時間でした。

男子生徒

・ 発表会はどのグループも緊張していたが授業・練習の成果が出せたと思う。また、違うテーマでこのような会をやってみたいと思った。

10 生徒提出のレポートより

女子生徒

『人間が心に感じたことや思想などを、様々な様式で表現した文学と音楽。シューベルトは異なる2つの芸術を結び合わせて詩の魅力と音の魅力を歌曲という媒体でうまく表現していると思う。現代に生きている私達が「アヴェ・マリア」などを聞いた時に心を動かされるほどに。

なぜシューベルトはそのような歌曲を生み出すことができたのかというと、まずは時代の流れが関係していると思う。

19世紀初め、ドイツを中心に文学の世界で広がっていたロマン主義が音楽の世界にも広がり始めた。時代や社会の変化によって人々の考え方がより自由になり、個々の表現を認め合うようになった。それまでの音楽は主に王や貴族の為にかけられていることが多くきちんとした形式が求められていたが、音楽家達は自分の感情や意志を自由に音楽上に表現することができるようになった。シューベルトの

音楽も形式を重んじすぎず、楽想が溢れ出るままに作曲したと言われている。

また、ロマン派初期にピアノが改良され、ロマン派の作曲家達にとってピアノはとても大切な楽器となった。シューベルトが歌曲で表現した言葉と音の深い結びつきには、ピアノ伴奏による多様な描写が重要な役割を果たしているように思う。

31年という短い生涯に1000曲を超える作品を残し、その中でも600曲を超える歌曲を残したシューベルトはやはり天才であり、「歌曲の王」の名にふさわしい。作曲数を知った時、とても驚いた。

また、友人や家族もシューベルトの活躍に良い影響を与えていたのだと思う。特に友人達は、彼を囲み一緒に音楽を楽しむだけでなく、音楽活動のために協力を惜しまなかった。その上、生活上の面倒を見ていた。シューベルトが友達を凄く大事にしていたからこそシューベルトも友人から大切にされていたのだろう。

このように時代や環境など、様々な条件がうまく組み合わさったことと、シューベルトの才能があって、彼は人生で沢山の歌曲を生み出すことが出来たのだと思う。

でも私が何よりも凄いと思ったのは、シューベルトが詩の情景を読み取り、それを音に表すことができるということだ。豊かな感受性がないと出来ないことだと思う。詩を読んだり、音楽を聴いたりして、様々な思いを巡らす事ができるのは素敵なことだと思う。私も色々な芸術に触れて心で芸術を感じることが出来たらいいなと思った。』

男子生徒

『大器晩成 - そんな四文字熟語を消し飛ばしてしまう程、シューベルトは早熟な音楽家だったのだと思う。』

シューベルトはすでに10歳の頃には楽才を発揮していたという。つまり、現代日本学童たちが社会や理科を学び始める頃には、彼は師の目を点にさせていたのだ。

そんな彼も意外なことに一時は教職に就いていたという。18世紀は兼職の音楽家が少なくなかったのかもしれない。この時すでに多作家だったシューベルト。小学校の助教員として業務をこなしつつも曲を作り上げることに明け暮れていたのだ。・・・いや、教員としての責務をちゃんと遂行していたかどうかは僕の知るところではない。もしかしたら、学校長であるお父さんにこんな注意を受けていたのかもしれない。

「息子よ、テストのマル付けが滞っているぞ」

類は友を呼ぶとはよく言ったもので、シューベルトは数多くの協力者と出会っている。音楽関係者は勿論、文学者とも交友を深めたことはシューベルトが歌曲を得意としていくことと繋がりがあるのかもしれない。

そして、シューベルトは根無し草の音楽家になる。生まれ育った家を離れ、流浪しながら音楽を続けたのだ。彼が取ったライフスタイルはいわゆる居候であった。仲の良い友達をターゲットにし、宿泊させてもらう。そうして寝床を確保しながら、作曲を推し進め楽器を弾いたのだ。

30代になったシューベルトはあることに没頭する。歌曲集「冬の旅」だ。彼はこの曲をまるまる1年かけて完成させる。劣化のない宝石のような彼の音楽の才能。だが、その宝石を冒そうとする者がいた。老若男女の区別無く死に追い込む者・・・病魔である。

31歳のシューベルトは病に感染し、致命傷となった。

秋の盛りとなる10月。シューベルトは「冬の旅」の校正を開始する。そしてそれを最後の任務とみなしたかのように1ヶ月後、彼の人生は幕を下ろす。

11月19日。シューベルトはいなくなった。

さて、冥福の祈りを捧げる前に少し書きたいことがある。

シューベルトが作曲した数々の曲の中でも一際怪しさに満ちた曲・・・「魔王」についてである。

完成したばかりの「魔王」の楽譜をシューベルトはゲーテに送った。対するゲーテはというと、何と無視して返却してしまったのだ。「魔王」の怪しさ、魔力を本能で察知したのだろうか。ところが、シューベルトの没後、ゲーテは「魔王」の魅力にとらわれてしまった。いちどは歯牙にもかけなかったのに、どっぷりはまってしまったのである。

思うに、ゲーテに送った時点では「魔王」は不完全だったのではないだろうか。だからこそ、その音色はゲーテの心の琴線にふれられなかったのだ。しかし、2度目にゲーテが「魔王」の楽譜をみたとき、それは完成していた。最後の仕上げ・・・ほかならぬシューベルトの死が曲にくわえられていたからだ。

このことを楽園にいるシューベルトはどう受け取っているのだろうか。

すなおに喜んでいるか。それとも皮肉だと苦笑しているか。

なににせよ、幸福な死後を祈るばかりである。』

11 おわりに

今回、数多くのシューベルトの歌曲を歌唱・鑑賞取り混ぜて授業で扱った。かなり詰め込んで授業を展開したので、生徒たちは面食らった部分もあったであろう。たが、生徒たちはたくさんの曲を楽しみながら、歌唱・鑑賞していった。楽譜を見てすぐに曲にでき、集中力も途切れることがあまりない生徒が多いからかもしれないが、本当によく取り組んだと思う。

初の試みの発表会にも積極的に取り組み、休み時間に練習するグループもあった。(カラオケではともかく、)誰もが人前で歌うということに抵抗があると思うが、歌唱が得意でない生徒もグループ発表という形に助けられ、全員が発表を行うことができたのは大変良かったと思っている。

また、授業が終わってからその歌を歌いながら次の教室に向かう生徒もいた。授業を採っていない生徒が鑑賞の時間に漏れ聞こえてきた曲について質問してくることもあった。そういう場面にあうと、本当にうれしくなってしまう。

レポートについては、発表者も後日提出者も調べ学習で終わることなく自分の意見・感想を述べることができ、読んでいるこちらとしても大変興味深いものがあった。シューベルトの歌曲にいろいろな形で触れたからこそ書けたレポートだと思う。

生徒たちにとって今回授業で扱ったシューベルトの歌曲が忘れられないものになったと信じている。ただ、多くの歌曲にふれるということを重視してしまったので、歌い込むという点では反省しなければならないことが多い。原語歌詞についても意味は理解する時間を設けることができたが、歌唱は生徒がもっとプロの演奏を耳で聞いて発音を理解でき練習できるような授業展開を考えたい。近藤朔風や堀内敬三の日本語訳も味があってよいと思うのだが、原語歌詞での歌唱にもう少し挑戦しなければ、と思う。また、暗譜はおろか、楽譜からなかなか目を離すこともできなかったのもので、発表会という点では難があったことも否めない。来年度以降の課題としたい。

当たり前のことだが、授業で扱った8曲のシューベルトの歌曲は彼の全歌曲からすればほんの一部である。さらに、クラシック音楽という大海から考えれば、どれだけのものであろうか。しかし、その一部分を扉とし、新たな世界を訪ね、こだわり方を彼ら自身で見つけながら長い人生を豊かに過ごして欲しい。そして生涯にわたって音楽を深く愛好してもらいたいと切に願っている。

最後になりますが、指導・助言をいただいたお二人の先生方、また、一緒に教科研究員をされたお二人の先生方にこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。本当にありがとうございました。